

# けんぽく

第23号[平成27年10月号]

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。



平成27年10月30日発行  
「食」と「ふるさと」  
新生運動ニュース

編集・発行 福島県県北農林事務所

## ◆平成27年度林業関係表彰式が開催されました！

平成27年10月17日（土）、郡山市安積町のホテルバーデンにおいて、平成27年度林業関係表彰式が開催されました。この表彰式は、毎年秋に福島県林業研究センターで開催される林業祭と併せて開催され、平成27年福島県きのこ品評会など5つのコンクールの表彰、「森の名手・名人認定証」の伝達、福島県知事感謝状の贈呈が行われました。

管内からは、きのこ品評会において、乾しいたけの部で福島市の山田耕平さんが林野庁長官賞、生しいた



表彰式会場の様子

け・原木しいたけの部で本宮市の渡邊富士雄さんが知事賞、同じく本宮市の國分進さんが福島県森林・林業・緑化協会長賞、なめこ・ひらたけの部でひらたけを出品した伊達市の三浦久義さんが福島県きのこ産地化推進協議会長賞を受賞しました。

第66回福島県学校関係緑化コンクールにおいては、伊達市立富成小学校が関東森林管理局長賞を受賞しました。

感謝状の贈呈では、伊達市の菅野庄一さんと二本松の佐久間孝さんが受賞され、感謝状が本県小野農林水産部長から手渡されました。

菅野庄一さんは、福島県指導林家として平成元年から活動され、優れた育林技術等により林業経営の改善に努められました。特に林業事業体の経営者として霊山町の雇用の確保に貢献するとともに、技術面・経営面で地域林業の模範となり、林業後継者の

育成指導に熱意を持って取り組まれました。

二本松市の佐久間孝さんは、青年林業士として原木しいたけ栽培の指導と技術の定着に18年間活動された後、平成13年からは、指導林家として栽培技術・品質の向上に努められ、技術面・経営面で地域林業の模範となり、林業後継者の育



知事感謝状を受ける菅野庄一氏

成・指導に熱意を持って取り組まれました。

感謝状を受賞された両氏のこれまでの功績に対し、深く敬意を表します。

(森林林業部)

## ◆県畜産の再興を目指すミネロファームの挑戦！

管内で、東日本大震災及び原発事故からの農業復興に取り組む「ミネロファーム」を御紹介します。

当ファームは、原発事故後に酪農経営を中断せざるを得なくなった酪農家4人が集まり、平成26年4月から、

福島市松川町で協同酪農経営の牧場として経営を開始しました。現在は、乳牛130頭を飼育



フリーストール牛舎でつろぐ搾乳牛

し、生乳出荷量は1日当たり4トンと、県内屈指の規模を誇る牧場になりました。

福島県酪農生産基盤の再生や被災酪農家の雇用創出を図るとともに、教育ファームやインターシップの受け入れ等人材育成を通じて社会貢献事業を展開しています。また、細菌DNAを標識にした新たな乳房炎防除システムの実証等、先端技術を取り入れた酪農経営を実践しながら、我が国酪農業が抱える課題を解決する新たなアグリビジネスモデルを提案しようとしています。これらの活動は、本県畜産復興の象徴的存在であるのみならず、将来の我が国酪農のあるべき姿を実現する牧場でもありともいえます。

農場管理責任者（牧場長）、紺野宏さんは、震災前、浪江町津島地区において酪農を経営し、本県酪農を牽引する酪農家が多い津島地区のまとめ役として活躍されていました。



ミネロファームの紺野宏氏(中央)

今回の挑戦について、「私たちは、今すぐ畜産経営を始められない人たちに、給料を受け取りながら酪農経営に参画してもらい、高い酪農技術や経営のノウハウを身につけ、それから、それぞれの故郷で酪農経営を開始してもらいたいと念願しています。」とおっしゃいます。

当農林事務所としましても、本県畜産の復興を着実に進め、安全な畜産物供給を支援してまいりますので、今後とも、福島県産畜産物の消費拡大に御理解と応援をお願いします！

(農業振興普及部)

## ◆福島と達南の生活研究グループ連絡協議会が「農産物ふれ愛市」に参加しました！

平成27年10月3日（土）及び4日（日）、福島市荒井の四季の里において、福島市農産物ふれ愛市実行委員会主催による「農産物ふれ愛市」が開催されました。この市は、地元農産物を広く市民に知ってもらうことと、地元農産物の安全性PRを目的として毎年開催されているものです。

参加した福島と達南の両地区生活研究グループ連絡協議会は、果実や野菜のほか、漬け物・餅・おこわなどの

加工品を販売しました。農産物には福島市の「しんせん・あんしんシール」が貼られ地



出店の様子

元農産物の安全性をPRしていました。

また、メインステージでは、午前と午後の2回、福島市の農産物をPRするイベントが開催され、それぞれの生活研究グループの代表者もステージに登壇し、「丹精こめて作った農産物は、新鮮で安全だから、みなさんに地元農産物をたくさん食べてほしい」と発表されました。

両日とも晴天に恵まれたこともあり、約9千人が四季の里に集まり、地元農産物と安全性のPRができた様子でした。



会場の賑わいの様子

(農業振興普及部)



## ◆「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催！

平成27年10月25日（日）、福島市公設地方卸売市場で行われた「わくわく市場まつり」の一角をお借りして、今年度3回目の「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました。

当農林事務所では、これまでも管内の量販店や直売所等において、県産農林水産物のおいしさや安全性を県民の皆様にも再認識していただき、県内消費の拡大、地産地消の推進を図るため、地域の特性をいかした消費拡大キャンペーンを開催しています。

当日は、ミスピーチキャンペーンクルーにも御協力いただき、御来場の皆様にノベルティグッズの配布のほか、市場の御厚意により、たくさんの海の幸・山の幸

を試食として提供し、旬の県産農林水産物のおいさと品質の高さをPRしました。



ミスピーチキャンペーンクルーによる試食の提供の様子

次回は、平成27年11月22日（日）にアグリビジネスネットワークあだち（安達地方の直売所と加工所が集まった団体）の皆様と連携し、道の駅「安達」（上り線側）で新米をメインにPRします。

当日は、うつくしまライシーホワイトも来場し、ノベルティグッズの配布や安達地方の郷土料理である「ざくざく」のほか、たくさんの試食を御用意しております。ぜひお立ち寄りいただき、「ふくしまの安心・安全、新鮮、美味しい」をお楽しみください。（企画部）

## ◆「県産食材利用推進キャラバン」を実施しています！

当農林事務所では、現在、「県産食材利用推進キャラバン」を実施しています。このキャラバンは、「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」における風評払拭・消費拡大運動の一環として行っているもので、管内の給食施設を設置している製造業者や温泉旅館等を訪問し、県産農産物の安全確保に関する取組について説明すると

ともに、現在の利用状況や課題などについて、聞き取りを行っています。

今回は、優良事例として二本松市のライオン菓子株式会社二本松工場の昨年度の取組を御紹介します。当工場は、株式会社トムスに委託して社員食堂で給食を提供しておりますが、県の「社内給食利用促進事業」を活用し、給食に県産農産物を取り入れたフェアを

2回実施されました。特に「県産豚食ベフェア」では、3種の県産豚肉（湖南豚の塩焼き、

エゴマ豚のスタミナタレ焼き、<sup>はやまこうぼんとん</sup>麓山高原豚のおろしポン酢）や県産野菜のバイキングを準備し、社員が食材に興味を持って食べていただけるよう取組まれました。

社員の皆様からの評判も上々で、「柔らかくて、とってもおいしい」、

「麓山高原豚というブランドを今回初めて知った」等の感想が寄せられたとのことでした。

現在は、給食に使用する米は福島県産100%で、野菜等もできるだけ県産のものを使用しているとのことです。

当農林事務所では、今後もキャラバン等を通じて、県産農産物の利用拡大が進むよう取り組んでいきますので、関係機関の皆様には引き続き御協力をお願いします。

（企画部）



県産豚肉食ベ比ベフェアのチラシ



3種の県産豚肉の給食

## ◆「もろこし料理コンクール」が開催されました！

平成 27 年 10 月 11 日（日）、伊達市梁川町白根地区交流館において、「白根再発見 もろこし料理コンクール」が開催されました。

この料理コンクールは、「白根料理加工グループみゆーの会」により、県の「農村女性活動再生事業」を活用して今回初めて開催されました。

当日は、おかず部門 23 点、スイーツ部門 22 点の出品があり、地元特産の「もろこし」の粉や粒を使った様々なアイデア料理が勢ぞろいし、審査員も「これほど多くの食べ方があるのか！」と驚いていました。

審査結果は、おかず部門においては、梁川町山舟生の秋葉初子さんの「もろこし入りザクザク煮」、スイーツ部門においては、梁川町白根の横山さくらさんの



もろこし入りザクザク煮

「もろこしラブリークッキー」が最優秀賞を受賞されました。

今後、出品された 45 点すべての料理がレシピ集としてまとめられ、参加者や地域の方々に配布されることとなっています。



もろこしラブリークッキー

まだまだ知る人ぞ知る食材の「もろこし」ですが、これを機に、ますます各家庭等で料理に活用されるようになることを期待します。

なお、「もろこし」は伊達みらい農業協同組合白根支店（電話 024-577-0312）にて購入できます。

（伊達農業普及所）

## ◆「ゆうきの里収穫大感謝祭農産物品評会」が開催されました！

平成 27 年 10 月 24 日（土）、二本松市の道の駅「ふくしま東和」において、特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会主催による「ゆうきの里収穫大感謝祭農産物品評会」が開催されました。

この品評会は、東和地域の野菜の品質向上及び当協議会ブランドの「東和げんき野菜」の消費拡大と、県北地域、ひいては県全域に食の安全安心の輪を広げることを目的として毎年開催されています。

当日は、野菜や果実を中心に総数 100 点の出品があり、今年の厳しい気象条件にもかかわらず、いずれも立派な品質が確保されており、農家の皆様の努力と御苦労が感じられました。

また、同時に形が変わった野菜を展示する「おもしろ野菜珍評会」も開催され、来場者を楽しませていました。

審査結果では、最も優れた生産者に贈られる二本松市長賞に、さやいんげんを生産した就農 5 年目の新規参加者が受賞するなど、若い力も伸びてきており、品評会を通して、東和地域の農業者の生産意欲の向上、さらには地域農業の振興につながるものと期待されます。



感謝際表彰式の様子

（安達農業普及所）

## ◆国見町で「稲刈り体験」が開催されました！

平成 27 年 10 月 3 日（土）、国見町小坂地区にて、国見町主催による地元の小学生を対象とした稲刈り体験が開催され、小学校 5 年生及び 6 年生の児童 46 名が参加しました。

当日は、国見町で水稲の大規模経営を行っている小坂アグリ株式会社（以下、小坂アグリ）の全面協力のもと、福島県オリジナル水稲品種「天のつぶ」を刈り取りました。



始めに、小坂アグリの朽木社長から、稲刈りのコツについて説明がありました。ほとんどの児童は初めての体験で、まっすぐ一列のみ刈ったり、横に刈ったりと、それぞれ思い思いに刈り取っていました。特に、天日干しのために稲を束ねる作業が難しかったようで、悪戦苦闘していました。



参加者全員の集合写真

稲刈り体験後は、小坂農村総合管理センターにて、用意された新米の「天のつぶ」や豚汁の昼食をおいしく頂きました。

その後、当農林事務所伊達農業普及所の鈴木幸雄主査が米づくりについて説明し、児童達は「自分たちが刈り取った稲から何個のおにぎりができるか？」などのクイズに大変興味を示していました。



米づくりの講話の様子

最後に、朽木社長から、「震災により中断していた稲刈り体験が国見町や伊達みらい農業協同組合の協力によって再開できたことや、参加した児童達から将来の農業担い手が育ってくれることを期待して、今後も稲刈り体験を継続していきたい」との話がありました。

(伊達農業普及所)

## ◆「第1回郷土のお味噌汁ワークショップ」が開催されました！

平成 27 年 9 月 25 日（金）、桑折町追分公民館において、元気こおり本舗有限責任事業組合主催の「第1回郷土のお味噌汁ワークショップ」が、地元の住民等 39 名が参加して開催されました。このワークショップは、平成 27 年度福島県過疎・中山間事業「あぶくま里山の恵み・地域元気づくり事業」

を活用し、県産農林水産物を用いた郷土の味噌汁づくり等の取組等を通じ、地域内外の多世代にわたる住民が交流する機会を創出し、次世代への食育を行うことで、地域活力の再生や農産物の安全・安心への理解向上、風評払拭を図る目的で開催されました。

ワークショップでは、始めに、元気こおり本舗有限責任事業組合、<sup>はたぐく</sup>畠腹桂子理事長より、具沢山の味噌汁を食べることにより野菜不足を補えること、減塩



畠腹桂子理事長の講話の様子

に注意する必要があるなどの講話がありました。

用意された桑折町郷土の具沢山味噌汁や秋なすのズンダ和え、炊き込みご飯等が参加者に振る舞われました。

特に、地元の里芋やネギなどの野菜等 10 種類の具と小麦粉の団子が入ったボリューム満点の桑折町



桑折町郷土の具沢山の味噌汁の試食

郷土の具沢山味噌汁は、参加者に大好評でした。

参加者は、子どもの頃に食べた懐かしい味噌汁の味や、次の世代に残したい郷土料理などの話をしながら交流を深めていました。

主催した元気こおり本舗有限責任事業組合では、次回は子ども向けに郷土の味噌汁の味を伝えるワークショップを計画していますので、今後も活動を紹介していきたいと思えます。

(企画部)

## ◆平成27年度「県北地方新たなふくしまの未来を拓く園芸振興推進会議」を開催しました！

平成27年9月29日（火）、福島市の福島県土地改良会館において、管内の園芸作物の生産拡大、振興施策及び園芸産地復興計画の進行管理を目的とし、管内各市町村及び新ふくしま農業協同組合等の各団体を参集範囲とした「県北地方新たなふくしまの未来を拓く



会議の様子

園芸振興推進会議」を開催しました。

始めに、「平成26年度新たな未来を拓く園芸振興プロジェクト」と「県北管内の園芸産地復興計画進捗状況」の報告がありました。特長的な取組として、伊達地方では、もものオリジナル品種「はつひめ」の面積増加とあんぽ柿の加工再開モデル地区拡大による出荷量増加が報告されました。福島地区では、日本なしの省力化と早期成園化が期待されるジョイント仕立ての面積増加や川俣町山木屋地区でのトルコギキョウの出荷再開等が報告されました。

次に、園芸産地復興計画（安達地方）の品目にトマトを追加すること、また、野菜指定産地近代化計画では夏秋きゅうり（信夫・伊達・安達）、秋冬きゅうり（伊達）、夏秋トマト（安達）、夏秋ピーマン（安達）、夏秋なす（安達）の内容変更を協議し、いずれも承認されました。

今後は、県北地方園芸振興セミナーを開催するなど、県北地方の園芸産地の生産体制強化と生産振興に向けて更なる推進を図って行くことが再確認されました。

（農業振興普及部）

## ◆「第2回県北地方農地中間管理事業推進連絡調整会議」を開催しました！

平成27年10月7日（水）、福島市の新ふくしま農業協同組合北信支店において、管内の農地中間管理事業推進に向け、第2回県北地方農地中間管理事業推進連絡調整会議を開催しました。当日は管内各市町村、各農業協同組合、各土地改良区、福島県農業振興公社、当農林事務所から42名が出席しました。

第1回に引き続き県北3地域（福島・伊達・安達）の合同で開催し、県北管内の各市町村から人・農地プラン作成及び農地中間管理事業の進捗状況や今後の推進予定について説明をいただきました。



出席者からの管内の状況報告

農地中間管理事業を更に推進するためには出し手側のメリットについて示していく必要があるのではないかとの意見や、推進が遅れている市町村からは、成果の上がっている他地域の事例を参考として、今後取り組みたいとの意見が出されました。

農業振興公社からは、県内の農地中間管理事業の取組事例の紹介や農地耕作条件改善事業（新）、契約書作成などの帳票作成システムの導入について説明があり、今後の推進に向けて意見統一が図られました。



農業振興公社からの説明

（農業振興普及部）

## ◆「平成 27 年度福島県多面的機能支払推進協議会県北方部研修会」が開催されました！

平成 27 年 10 月 7 日（水）、福島市の「パルセい  
いざか」にて、  
福島県多面的機能支払推進協議会主催の「平成  
27 年度福島県多面的機能支払推進協議会県北  
方部研修会」が開催されました。管内の市町村、土  
地改良区、共同活動を行う組織及び当農林事務所な  
ど約 200 人が参加しました。



研修会の様子

多面的機能支払交付金は、農地や用・排水路、農  
道などの草刈りや泥上げ作業などの農地維持共同  
活動に国、県及び市町村から 10 アール当たり約 3  
千円、農業用水路の簡単なひび割れ補修などの地域  
資源向上活動に 2 千 4 百円交付されるもので、今年  
度は県北地方の 172 の組織に約 2 億 5 千万円が交付  
されています。

研修会では、福島市の土船地区環境保全組合梅津  
司事務局長の事例発表があり、「農地周辺の草刈り、  
生き物調査及び植栽活動を行っている。特に植栽活  
動は、お年寄りと子どもの世代間交流の場となり、  
地域の輪が広がるきっかけになっている。また、自  
分たちでき

れいにすることで自治  
の精神が醸成され、次  
世代へ継承されていく  
ことがうれしい」との  
話がありました。



土船地区環境保全会植栽活動の様子

当日は、水路の補修方法や組織の運営方法などの  
説明もあり、研修の成果が今後の質の高い活動につ  
ながることが期待できる研修会となりました。

（農村整備部）

## ◆平成 27 年度ふくしま地域産業 6 次化全県ネットワーク交流会を開催します！

(1) 日時

平成 27 年 11 月 19 日（木）10:00～16:30

(2) 場所

ビックパレットふくしま 多目的展示ホール  
（福島県郡山市南 2 丁目 52 番地）

(3) 内容

① セミナー

- ・「新しい食品表示制度の概要」（11:00～12:00）
- ・「健康食品の市場動向と消費者が求めるパッケージデザインのポイント」（14:00～15:00）

講師：（株）ビューティラボ代表取締役 中野啓子氏

② 交流会

会場では、県産農林水産物及び地域産業 6 次  
化商品等の販路開拓や P R、生産者と実需者の  
交流の場づくりを目的とした商談会が開催さ  
れています。

この商談会は、出展者と参加申込を行なった  
バイヤーのみが参加対象となっておりますが、  
本交流会に参加される方については、会場内を  
自由に御覧いただき、交流の機会としてお役立  
てください。

※この商談会は、一般の方は入場できませんので御  
注意ください。

※本交流会にお申込みされた方は、商談会への申込  
は不要です。

(4) 申込方法

<http://www.6jika.com/news/5318.html> より申  
込用紙をダウンロードし、必要事項を記入後、申  
込用紙に記載した宛先に F A Xにてお申込みく  
ださい。

※応募締切：平成 27 年 11 月 17 日（火）

※本交流会の参加対象は各地方ネットワーク会員、県  
各関係団体等です。

（企画部）



## ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動県北地方推進本部の構成員活動紹介

### 特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

“ふるさとの美味しさを届ける活動の継続を目指して”

当協議会は、ふるさとの味や美味しさを届けるために、首都圏の販売等に積極的に出展し新鮮野菜や農産加工品の販売を通して、消費者との交流を継続的に展開しています。

今年は、4月に川の手荒川まつり、8月にせたがやふるさと区民まつり、10月にすみだまつり、所沢市民フェスティバルなどに出演しました。毎回来場していただけるお客様も多く、「頑張って」との激励や「美味しいよ」と言ってもらえることが大きな励みとなります。

これらの首都圏の区民祭りやイベント出展では、ふくしまの便りとともに新鮮な野菜や懐かしい味を心待ちにして、買い求めてくれる顔なじみの方々がおられるのは大変嬉しいかぎりです。

長年の出展により、信頼関係も生まれて、顔の見える関係から心のつながりへと発展しつつあることを年を追うごとに実感してまいりました。

しかし、平成23年3月に起きた福島第一原子力発電所の事故により大きな影響を受けてしまい、当時はこれら区民祭りやイベントへの出展は叶わないのではないかと懸念がありました。

しかし、当協議会設立の目標とする3つの柱の1つとして掲げている、有機農業の推進のため、地域資源の循環により製造したげんき堆肥を使うこと。化学肥料・農薬を慣行使用量の半以下による栽培や土壌検査、販売品目ごとの放射性物質の測定など、6つの約束ごとでつくる「げんき野菜」が受け入れられ、出展の継続につながっています。

県産農産物への風評被害も払拭傾向に向かうと思われませんが、この事故を契機に安全なモノづくりから、美味しいモノづくりを目指してまいります。

また、中山間地域の土地条件をいかしての新たなモノづくりとして無添加の里山ソース、地域資源まるごと手づくりアイス、特産の桑製品づくりなどに取り組んでまいります。

そして、多様な人びとが住む里づくりのため、定住支援・新規就農者支援、若い地域リーダーの育成に努めるとともに、お年寄りが元気に活躍できる場づくりの役割を今後とも担ってまいりたいと考えています。



すみだまつり出展風景



道の駅ふくしま東和直売所



桑の葉加工風景

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-535-0382

FAX 024-536-9590

電子メール [kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp](mailto:kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp)

